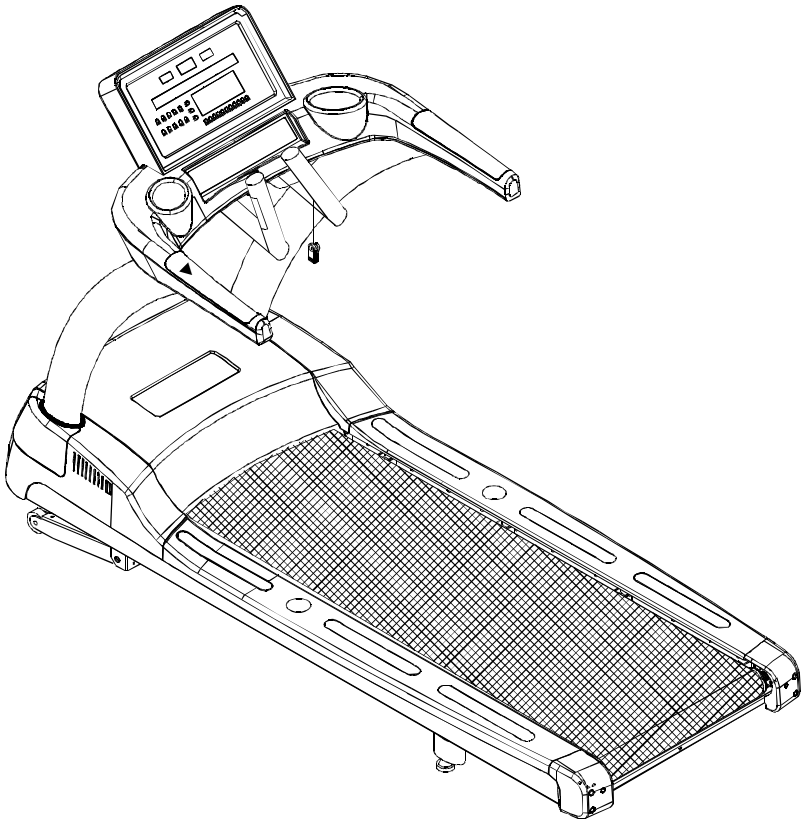
トレッドミル　T650MES

SportsArt FITNESS

取　扱　説　明　書



ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。また、本書は保証書とともに大切に保管してください。

もくじ

「安全にお使いいただくために」はご使用の前によくお読みの上、正しくお使いください。

はじめに

設置場所について……6
供給電源について……6
各部の名称と付属品について……7
トレッドミル組立方法……8

操作方法

操作部、表示パネル部の名称……10
プログラムの概要……11
１．　クイックスタート……13
２．　クイックプログラムモード……14
３．　各プログラムモード……15
４．　脈拍センサーの使い方……26

調整方法とお手入れ方法

走行ベルトの張り調整……27
走行ベルトの偏り調整……28
各部のお手入れ方法……29
シリコンオイルの注入方法……30

トラブルシューティング

ヒューズの交換方法……33
エラーメッセージについて……34

その他

仕様　性能　寸法……35
日常・定期点検について……36
日常点検表……37
定期点検表……38
オプション　ロングハンドレールの組立て方法……40
保証書

安全におつかいいただくために

このたびは　トレッドミル T650MES をお買い求めいただき、ありがとうございました。

●ご使用の前にこの「安全にお使いいただくために」をよくお読みになり、この製品を正しくお使いください。

●ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠ 危 険	誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、かつその切迫の度合いが高い危害が想定される内容が記載されています。
⚠ 警 告	誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。
⚠ 注 意	誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

図記号の例

	禁止の行為であることを告げるものです。
	警告、注意を促す内容があることを告げるものです。具体的な内容を近くに文章で示します。
	行為を強制したり指示したりする内容があることを告げるものです。

⚠ 警 告

- 身体に病気や障害のある方はトレーニングを始める前に必ず専門の医師、またはスポーツトレーナーにご相談ください。特に次の病気のある方は、必ず医師にご相談ください。心臓病（狭心症・心筋梗塞など）、高血圧症（降圧剤を服用中の方など）、糖尿病、呼吸器疾患（ぜんそく・慢性気管支炎など）、変形性関節リウマチ、痛風など。）
- ご年配の方や運動習慣のない方がご使用になる場合は、念のために医師、またはスポーツトレーナーにご相談ください。
- 本機をリハビリテーションの目的に使用される場合は、危険防止のため必ず監督者の下で使用してください。
- 操作者および使用者は、手や足、髪、装飾類衣服などをマシンの可動部分に近づけないでください。巻き込まれたり、挟まれたりする恐れがあります。
- 電源投入時や再起動する時は走行ベルトの上に乗らないでください。走行ベルトが急に動き出す場合があります。
- マシンの速度を急激に変更しないでください。マシンから落下する恐れがあります。
- メンテナンス等で、モーターカバーを外す場合は販売店にご相談ください。内部に高電圧部分があり感電する恐れがあります。
- 使用中にお子様などが近づかないように充分にご注意ください。

⚠ 危 険

- 防爆については、特に考慮して設計されていませんので、可燃性ガス等の発生する恐れのある環境での使用は、引火、火災、爆発の恐れがあるのでお止めください。
- ガス管を使用するアースの使用は、火災、爆発の恐れがありますのでお止めください。
- トレッドミルの近くで可燃性および引火性の気体・液体を使用しないでください。
- トレッドミルの改造は絶対にお止めください。

⚠ 注 意

（設置上の注意）

- 水のかからない場所に設置・保管してください。また、熱器具の近くや浴室の脱衣所等の湿気の多い場所への設置は避けてください。
- 湿度、風通し、日光に留意し、ほこり、塩分、硫黄分などにより、悪影響の生じる恐れのない場所に設置・保管してください。
- 使用者がトレーニング中に他の器具に触れないような場所に設置し、本体の後方面は走行速度についていけない場合など待避所として１ｍ以上空けて設置してください。
- 傾斜、振動、衝撃（運搬時を含む）等、安定状態に注意してください。
- 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に設置・保管はしないでください。
- 電源の電圧、周波数、および消費電力が正しく供給できる場所に設置してください。
- マシンを設置する時にはアースを正しく確実に接地してください。
- コード類が正しく確実に接続されているかご確認ください。
- コード類を取り外す際は正しく持って取り外してください。
- 本機は屋内での使用に限定し、屋外での使用は禁止してください。

（使用上の注意）

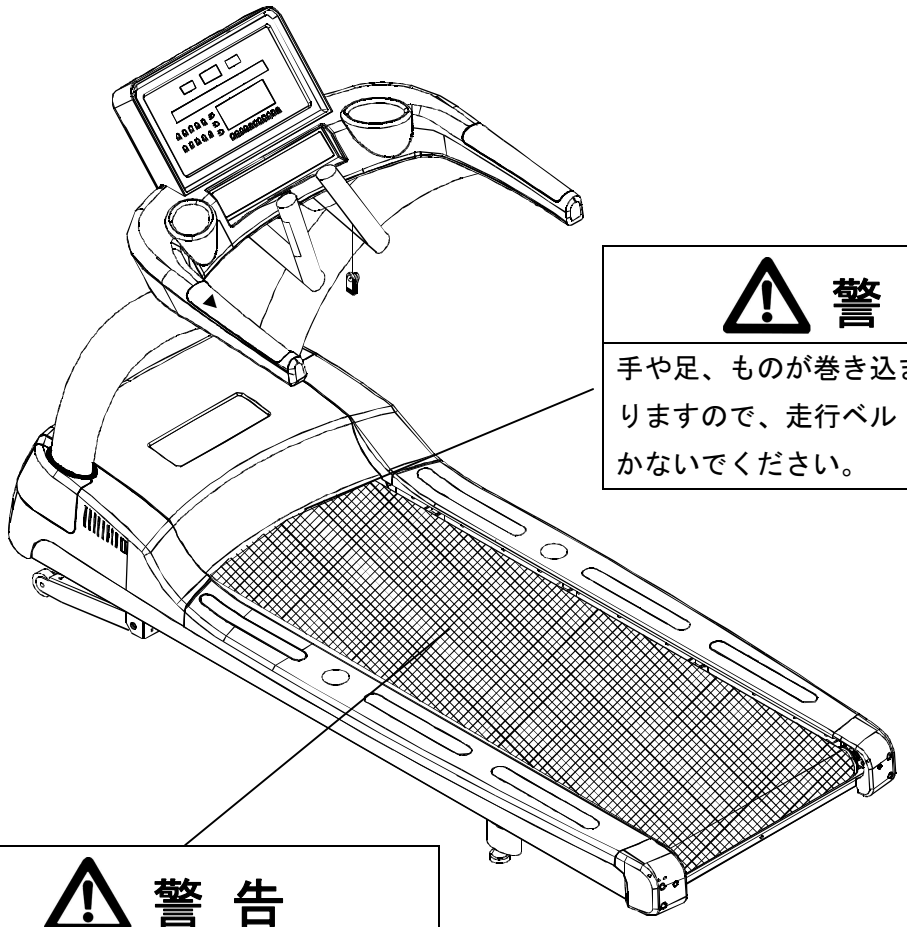
- マシン、および付属品等は次回の使用に支障のないように清浄にしておいてください。
- 電源コードを抜き差しする時は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。電源スイッチを入れたままだと内部の電子基盤などに悪影響を及ぼすこともあります。
- ご使用の前に必ずトレッドミルの状況をチェックしてください。
- マシンが正常に安全に作動することをご確認ください。
- マシン、および使用者に異常がないことを常に監視し、異常が発見された場合は直ちに使用者の安全を最優先し、マシンの動作を止める等の適切な処置をしてください。
- マシン、および他の器具等に使用者が触れることがないように注意してください。
- マシンの安全を維持するために日常点検を実施してください。
- マシン、および部品を定期的に点検するようにしてください。
- トレーニングの際は運動に適したシューズ、ウエアを着用してください。
- このマシンの使用体重制限は１５０kg 以内です。
- ２人乗り、後ろ向きでの走行、自分のレベルを超えた運動、飛び乗り、飛び降りは絶対にしないでください。
- 走行ベルトは定期的に交換が必要です。使用条件、環境にもよりますが、累計使用時間 2,000 時間を目安に交換してください。走行ベルトの交換を怠りますと、電子基盤やモーターなどの故障につながります。
- スタート操作をする時は両足はサイドステップ部に乗せた状態で行ってください。走行ベルトに乗った状態ですと、急な発進についていけなくなる場合があります。

⚠ 警 告

このマシンをリハビリテーションの目的に使用する場合、危険防止のため、必ず監督者の下で使用してください。
このマシンの走行動作中は事故防止のため、監督者以外をこのマシンに近づけないでください。

⚠ 注 意

ストップボタンは高速時での使用は十分に注意してお使いください。



⚠ 警 告

手や足、ものが巻き込まれる危険がありますので、走行ベルト作動中は近づかないでください。

⚠ 警 告

手や足､ものが巻き込まれる危険がありますので､走行ベルト作動中は近づいたり、物を置いたりしないでください。

はじめに

◎設置場所について

（１）トレッドミルの設置場所は使用者の安全を確保するために十分に広い場所を設け、トレッドミルの周囲、特にその後部には使用者の転倒に備えて厚手のマット等を敷き、事故防止が配慮されている場所をお選びください。
なお、このマシンは液体の進入や可燃性ガスに対する防爆を考慮しておりませんので、水のかからない、また可燃性雰囲気ではない場所で使用してください。
また環境条件として、室温、および湿度は四季を通じて、できる限り一定に保つようにしてください。

（２）トレッドミルは重量がありますので、荷重に耐えうる水平な床面に設置してください。設置条件が悪い場合には共振による騒音、および振動等が発生したり、走行ベルトに偏りが生じたりしますので、注意してください。

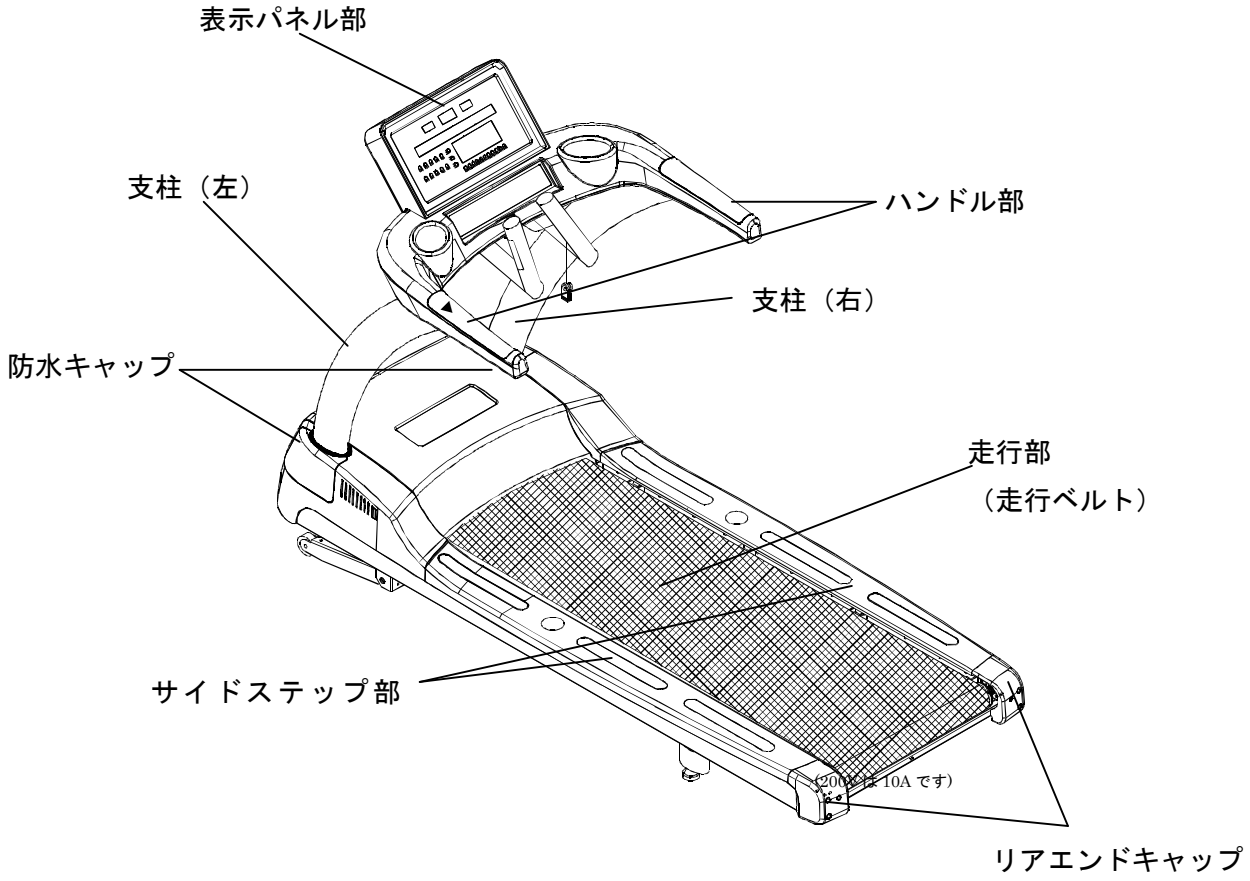
◎供給電源について

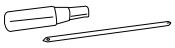
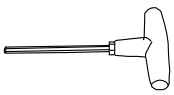
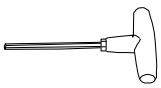
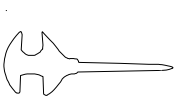
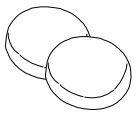
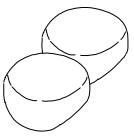
トレッドミルは稼動時に大電流を消費するため、容量を考慮して専用の AC100V 電源ラインのコンセントを用意してください。トレッドミルの最大アンペアは 15A です。
また、電源コードは延長ケーブル、テーブルタップ等の中継コードを介さず、必ず専用壁面のコンセントに付属の電源コードを用いて差し込んでください。
（1 系統のコンセントに 1 台のトレッドミルとなるのが望ましいです。）

※電源コードは本体の下をくぐらせないように配線してください。やむを得ず、本体の下をくぐらせる場合は、移動用キャスター等に挟まないようにお願いします。

⚠ 注 意
アースは必ず接地してください。アースを接地しないと外部ノイズ等の発生によりマシンに異常な現象を起こす場合があります。アースを接地しない場合の故障は保証の対象外となる場合があります。

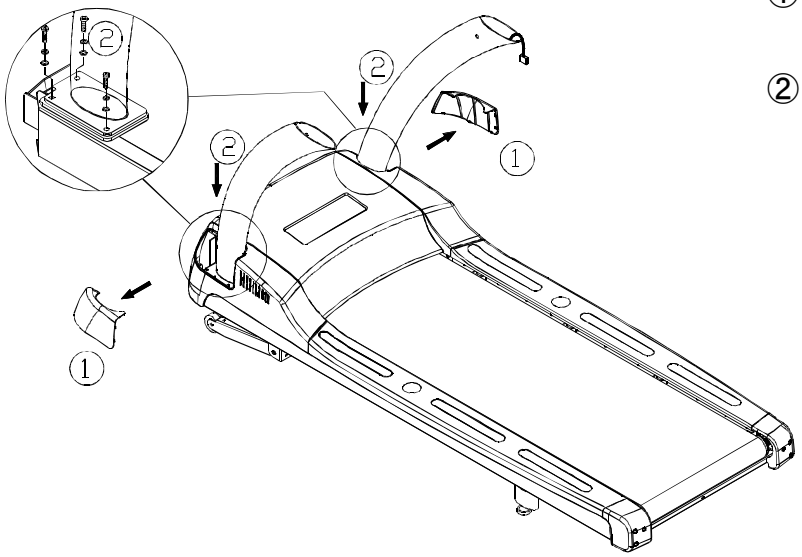
◎各部の名称と付属品について



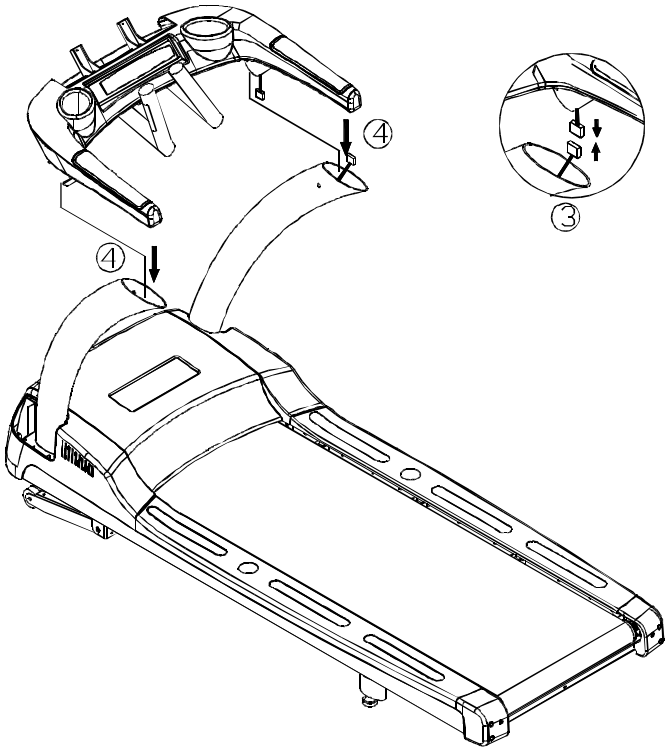
A ドライバー 	B T型レンチ（6㎜） 	C T型レンチ（4㎜） 	D ヒューズ（15A） （支柱についています）	E 安全キー
F ｺﾝﾋﾞﾈｰｼｮﾝﾚﾝﾁ 	G ﾎﾞﾙﾄｷｬｯﾌﾟ（平型） 	H ﾎﾞﾙﾄｷｬｯﾌﾟ（波型） 	I 防水キャップ	

※<u>ご使用の前に安全キーがセットされているかご確認ください。セットしていないと作動しませんのでご注意ください。</u>

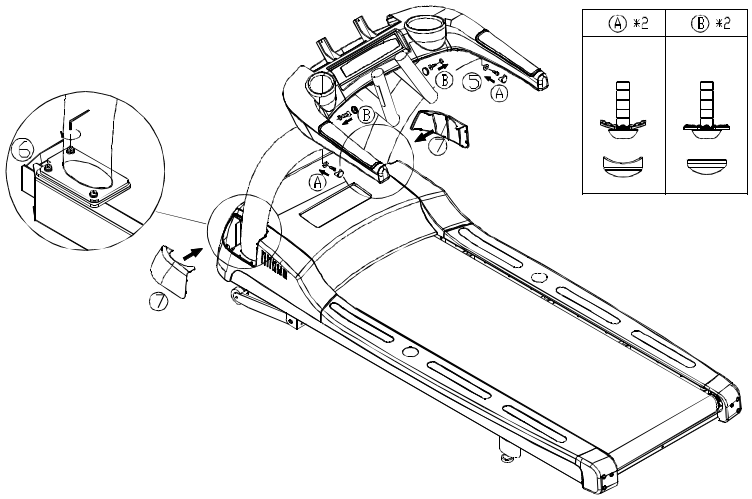
◎トレッドミルの組立て方法



① 左図のように左右のフロントキャップを外します。
② 次に左右の本体支柱を取付けます。その時に右側の本体支柱の中に接続ケーブルを通します。この時、あらかじめ細い紐などを通しておくと簡単に通ります。
※固定ボルトはまだ仮止めにしておいてください。



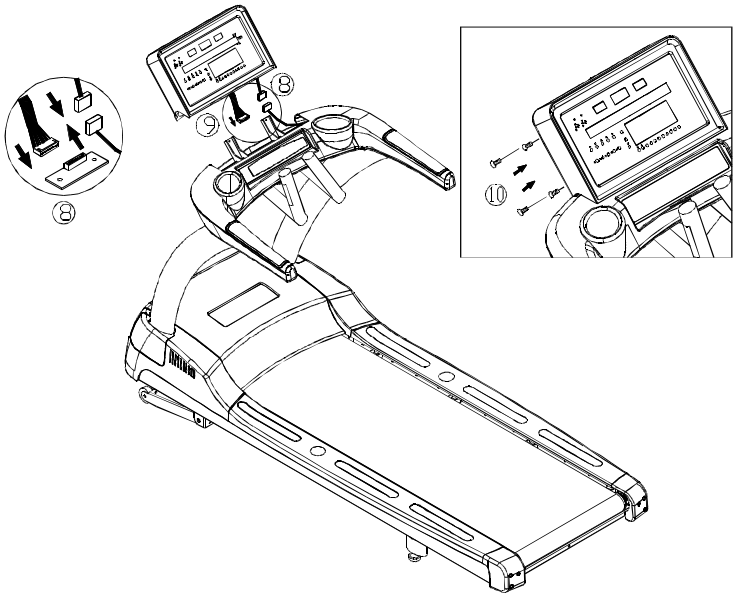
③ 接続ケーブルをしっかりと接続します。
※あまり強く引っ張ったりすると断線する恐れがあるのでご注意ください。
④ 次にハンドルバーを本体支柱に組み合わせます。
※ハンドルバーはとても重たいので２人以上で作業をしてください。



⑤ ハンドルバーを固定します。まず、Ⓐを参考に丸いワッシャーを使用して、固定します。Ⓑを参考に平ワッシャーを使用して、固定します。

⑥ 本体支柱を固定します。ハンドルバーの固定ボルトを全部固定しましたら、本体支柱の固定ボルトを完全に締め付けて、固定します。

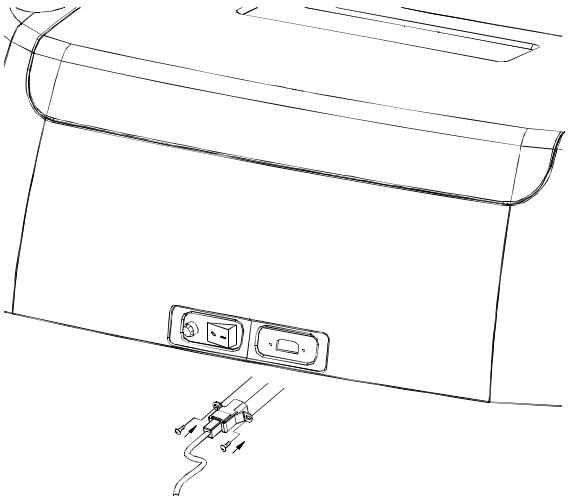
⑦ フロントキャップを図の位置に合わせて固定します。



⑧ 表示パネル部を取付けます。表示パネル部側から接続コードが２本出ていますので、ハンドルバーから出ているコードとしっかりと接続します。
※この時無理にケーブルを引っ張らないでください。内部コネクタが抜ける恐れがあります。

⑨ 表示パネル部をハンドルバーの上に固定します。しっかりと確実に取付けてください。

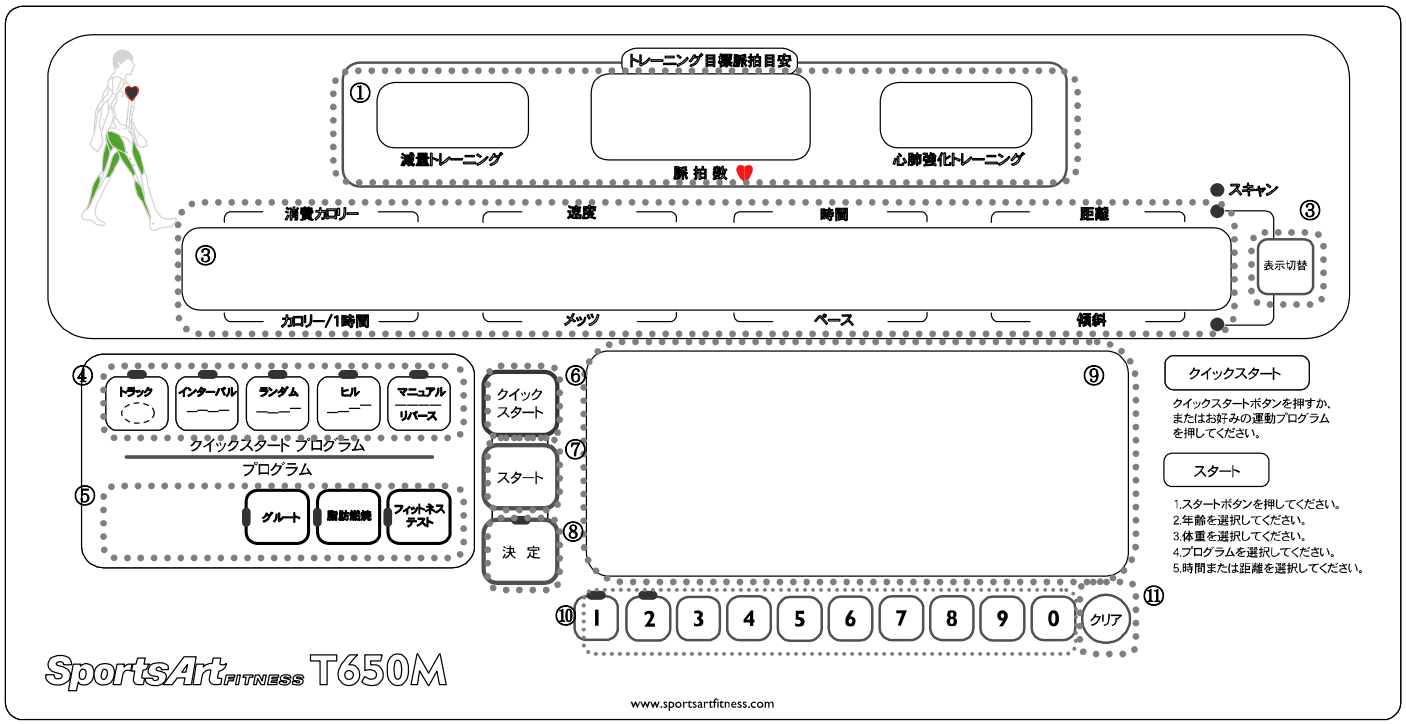
⑩ 付属のネジにて固定します。

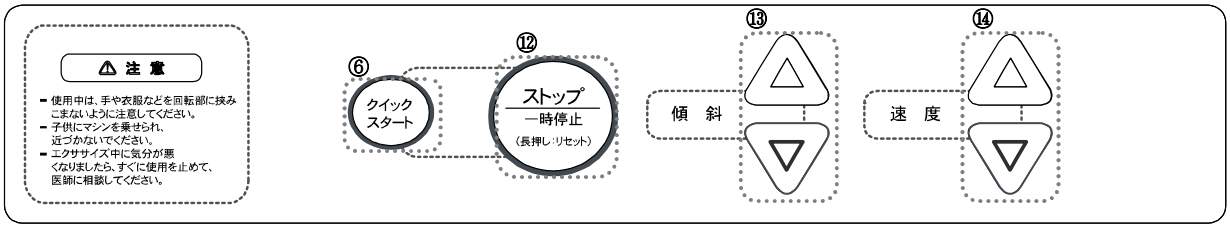


電源コードを取付けます。
仮止めしてあるボルトを外して、電源コードを取付けます。ボルトを締め付けして、固定します。

操作方法

◎操作部、表示パネル部の名称





①ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ目標目安表示	減量ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞと心肺強化ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞの目標値の目安を表示します。
②運動データ表示部	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞの各ﾃﾞｰﾀを表示します。
③スキャンボタン	運動ﾃﾞｰﾀの上段と下段を切替します。
④ｸｲｯｸｽﾀｰﾄﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾎﾞﾀﾝ	ｸｲｯｸｽﾀｰﾄﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの選択ﾎﾞﾀﾝです。
⑤ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾎﾞﾀﾝ	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの選択ﾎﾞﾀﾝです。
⑥ｸｲｯｸｽﾀｰﾄﾎﾞﾀﾝ	年齢、体重の入力なしですぐにﾄﾚｰﾆﾝｸﾞを開始するﾎﾞﾀﾝです。
⑦スタートボタン	年齢、体重の入力に進みます。
⑧決定ボタン	各項目の数値の登録時に使用します。
⑨ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝ表示部	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞのｲﾒｰｼﾞを表示したり、スクロール文字を表示したりします。
⑩数値入力ボタン	目標数値の設定に使用します。
⑪クリアボタン	数値入力の際に訂正の時などクリアする時に使用します。
⑫ストップボタン	一度押すと停止します。（時間設定の時は一時停止）長押でリセットします。
⑬傾斜ボタン	傾斜角度の変更時に使用します。
⑭速度ボタン	走行速度の変更時に使用します。

（上図はＴ６５０Ｍのものです。）

プログラムの概要

A. クイックスタートモード

クイック
モード

クイックスタートモードは個人データ（年齢、体重）の入力を省略して、すぐにエクササイズができるモードです。簡単に始めることができますが、消費カロリーなどの数値はあらかじめマシンに登録されている初期数値（年齢 35 才、体重 75kg）での算出となります。消費カロリーなどのデータをより実際の数値に近づけたい場合は設定モードをご利用ください。
なお、クイックスタートモードではご利用できない運動プログラムもあります。

B. 設定モード

設 定
モード

設定モードでは個人データ（年齢、体重）の入力を行います。年齢、体重を入力しますと、トレーニングの目標脈拍目安が表示されます。
エクササイズの前に年齢、体重などを設定します。消費カロリーなどの数値がより実際の数値に近づきます。
設定モードのみの運動プログラムもあります。

１．マニュアル（トラック）モード

クイック
モード
設 定
モード

個人データ（年齢、体重など）の入力をせずに、すぐにエクササイズができる簡単モードです。走行中、任意で走行速度、傾斜角度を変更できます。
インフォメーション表示部には 400ｍトラックが表示されます。

２．ヒル（山登り）モード

クイック
モード
設 定
モード

山登りのイメージであらかじめマシンに搭載されている傾斜パターンの運動プログラムのエクササイズができます。１～３の運動プログラムがあります。

３．ランダムモード

クイック
モード
設 定
モード

ボタンを押すたびに傾斜パターンが変化するモードです。傾斜パターンはランダムに変化します。

４．インターバルモード

クイック
モード
設 定
モード

2 段階の傾斜パターンの繰り返しのエクササイズです。
休息時と運動時のインターバルトレーニングが可能です。

設定モードでのご使用の場合は、全体の運動時間、休息ステージの傾斜／速度、
運動ステージの傾斜／速度を設定できます。（反復運動）

パターン：　１：１　１：２　２：２（分単位）

５．トラックモード

クイック モード　設 定 モード

400mのトラックをイメージしてエクササイズができます。インフォメーション表示部に 400mトラックが表示され、ラップなどが容易に把握できます。

設定モードでのご使用の場合は、目標距離を５ｋｍ／１０ｋｍにワンタッチで入力することができます。

６．減量（ダイエット）トレーニングモード

設 定 モード

個人データ（年齢、体重）を入力して、そのデータから算出された「減量トレーニング」に最適な脈拍数に近づけるように速度と傾斜角度を自動設定するモードです。目標脈拍より脈拍が低い場合は、運動はきつくなり、逆に目標脈拍より脈拍が高いと運動はやさしくなります。

目標脈拍は最大脈拍数の６５％です。

７．グルートモード　　グルート＝大殿筋

設 定 モード

大殿筋を中心にトレーニングできる傾斜プログラムパターンでのトレーニングをすることができます。30 分、45 分のいずれかを選択します。

８．フィットネステスト

2 種類（ブルース、ジャーキン）の体力テストを行うことができます。テスト終了後、スコアが表示されます。
各段階で自動的に速度及び傾斜率を調整し負荷を段々増加します。
100 点満点の評価です。
※チェストベルトの着用が必要です。

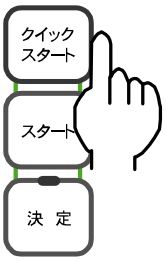
※　リバースモード

T650MS ではリバース（逆走）走行することが可能です。通常の使用と違って、スタート位置より前側に進みます。作動時にはサイドステップに足を乗せて動かすようにしてください。充分に注意してご使用ください。
（リバース最高速度－５．０ｋｍ／ｈまで）

※ 各トレーニングモードの設定方法はスクロール文字の指示に従って、進行してください。

１．クイックスタート（ﾏﾆｭｱﾙﾓｰﾄﾞ）

１－１　クイックスタートモード選択

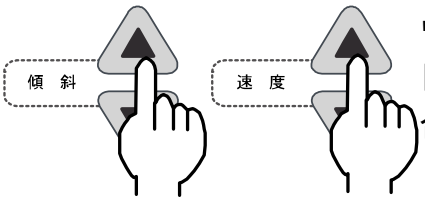


簡単操作のクイックスタートモードです。デモ画面の時にクイックスタートボタン、または速度ボタンを押します。

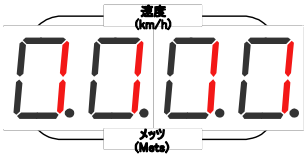
１－２　走行ベルトスタート

３‥‥２‥‥１‥‥とカウントダウンが始まり、「ピー」という音とともに走行ベルトが動きます。

１－３　速度、傾斜を入力

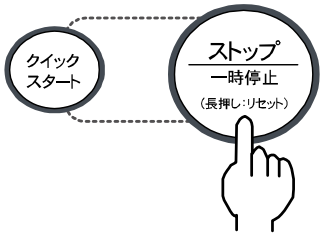


任意で走行速度、傾斜角度の変更を行います。
ウォーキングの目安は 3～5km／h、ジョギングは 10km／h 以上を目安としてください。個人差がありますので、ご自分の体力などに合わせて設定してください。



数値入力ボタンで走行速度の入力をダイレクトに設定することができます。数値入力ボタンを押していくと１の位から順にスライドしていきます。設定したい速度を入力し、決定ボタンを押すと速度が変わります。
例）10.2km／ｈに設定の場合は１、０、２→決定ボタンです。
数値入力ボタンにて速度を変更する場合は、急に走行速度が変わるので十分にご注意ください。（入力速度を誤った場合など。）

１－４　エクササイズ終了

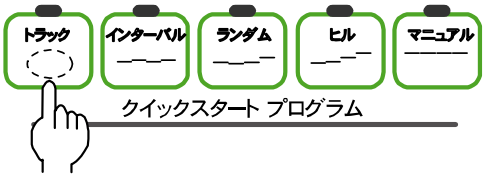


マシンを停止させる時はストップボタンを押します。または、安全キーを外します。
ストップボタンを押すと、トレーニングデータがリセットされ、デモ画面に戻ります。

※一時停止はクイックスタート使用時には適応されません。

２．Touch-N-Go ｸｲｯｸﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾓｰﾄﾞ

２－１　クイックスタートモード選択



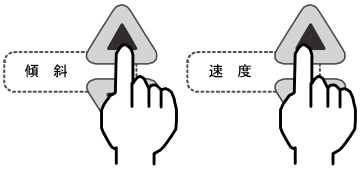
Touch-N-Go クイックスタートプログラムの各モードボタンを押します。簡単操作のクイックスタートモードです。個人データを入力しなくても、各運動プログラムを選択できます。※目標の設定はできません。

※各運動プログラム内容は前項の「各運動プログラムの概要」を参照ください。

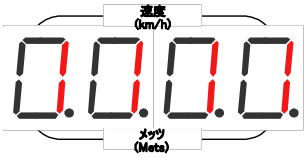
２－２　走行ベルトスタート

３・・・・２・・・・１・・・・とカウントダウンが始まり、「ピー」という音とともに走行ベルトが動きます。

１－３　速度、傾斜を入力



任意で走行速度、傾斜角度の変更を行います。
ウォーキングの目安は 3～5km／h、ジョギングは 10km／h 以上を目安としてください。個人差がありますので、ご自分の体力などに合わせて設定してください。

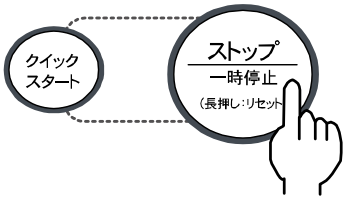


数値入力ボタンで走行速度の入力をダイレクトに設定することができます。数値入力ボタンを押していくと１の位から順にスライドしていきます。設定したい速度を入力し、決定ボタンを押すと速度が変わります。

例）10.2km／ｈに設定の場合は１、０、２→決定ボタンです。

数値入力ボタンにて速度を変更する場合は、急に走行速度が変わるので十分にご注意ください。（入力速度を誤った場合など。）

１－４　エクササイズ終了



マシンを停止させる時はストップボタンを押します。または、安全キーを外します。

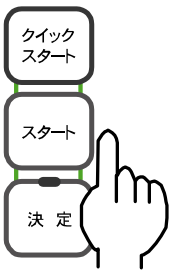
クイックスタートの場合はストップボタンを押すと、トレーニングデータがリセットされ、デモ画面に戻ります。

Touch-N-Go クイックスタートモードは目標設定はできません。運動時間、運動距離を設定したい方は設定モードをご使用ください。一時停止は適応されません。

３．設定モードの方法

データ入力までの流れ

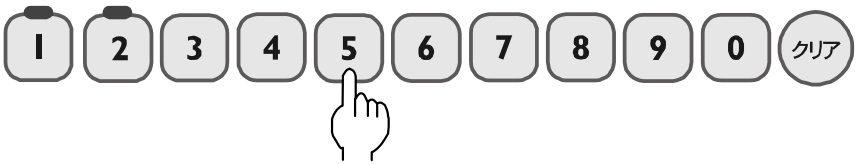
３－１　設定モード選択

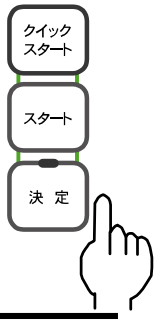


デモ画面の時にスタートボタンを押してください。

３－２　年齢入力

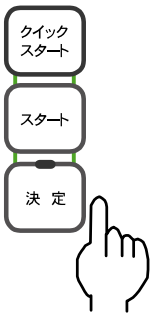
①年齢の入力を行います。
傾斜ボタン、または数値入力ボタンで選択し、
決定ボタンを押します。



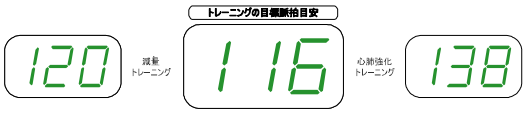


３－３　体重入力

②体重を入力します。
傾斜ボタン、または数値入力ボタンで選択し、
決定ボタンを押します。



３－４　目標脈拍表示



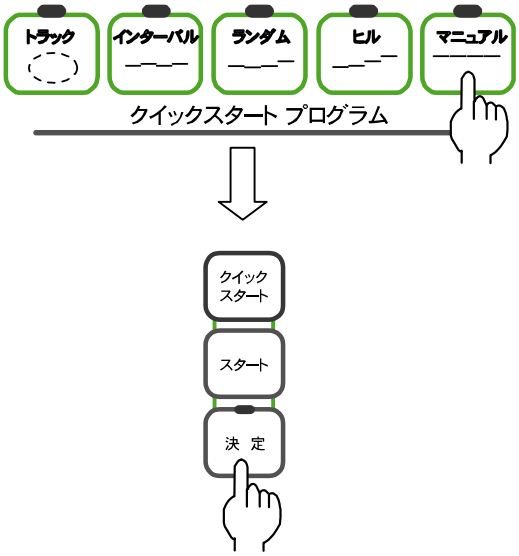
年齢、体重を入力しますと目標脈拍目安に
数値が表示されます。

この次に各運動プログラムを選択します。

各運動プログラムの設定方法（設定モード）

ここでは、前項の続きの手順となります。

マニュアルモード【リバース（逆走）／マニュアル（順走）

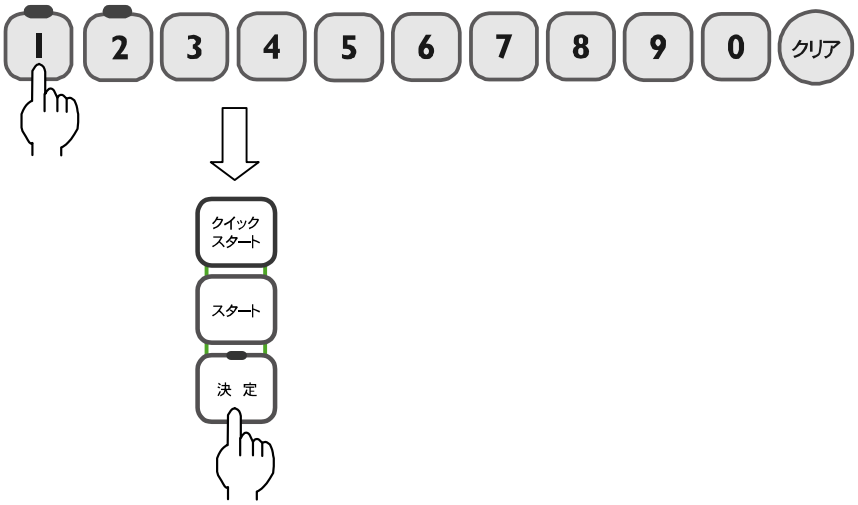


「マニュアル」を押すと、「リバース」と「マニュアル」を交互に表示します。
いずれか選択し、決定ボタンを押します。

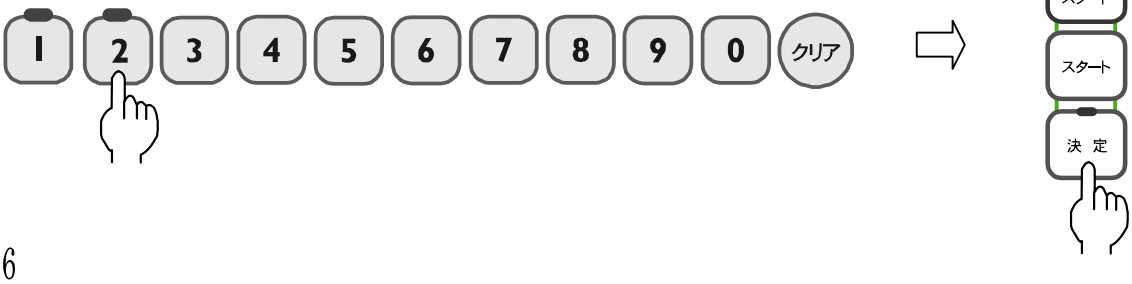
※リバースを選択した場合は、逆走（走行ベルトが前側に進みます。スタート位置より前に進みますので、モーターカバーなどに接触しての転倒事故などに充分に気をつけてください。

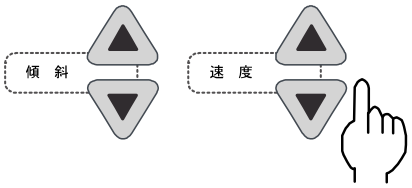
目標時間／距離の選択画面になります。
数字入力ボタンで時間／距離を選択して決定します。

１：ジカン　２：キョリ



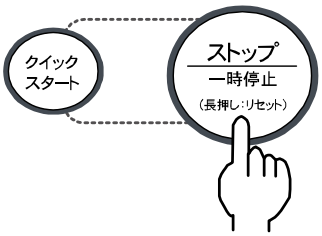
時間の場合は５－９９（分）
距離の場合は 0.1－99.9（km）
目標数値を傾斜ボタン、または数値入力ボタンで入力して決定を押します。





目標設定が完了したら、速度表示が点滅します。
速度ボタンを押すと、エクササイズスタートです。

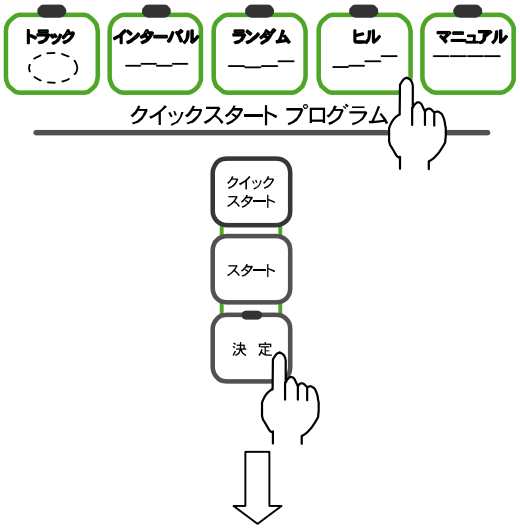
エクササイズ終了



目標達成しましたら、トレーニングの累積データが表示され、
しばらくすると、クールダウンモードに入ります。
徐々に速度が落ちていき、完全に停止するとデモ画面に戻ります。

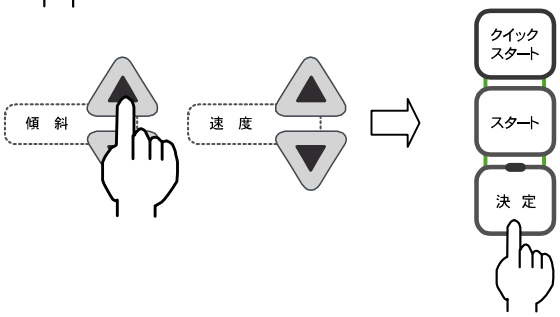
途中でエクササイズを終了する場合はストップボタンを押します。

ヒルモード



「ヒル」を押します。
「ヒル」を押すたびに「ヒル１」「ヒル２」「ヒル３」となるので、選択して決定ボタンを押してください。

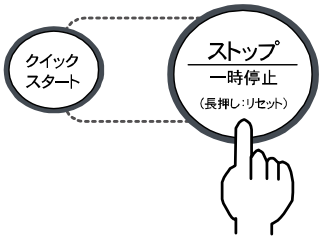
目標時間／距離の選択画面になります。
数字入力ボタンで時間／距離を選択して決定します。
　１：ジカン　２：キョリ



時間の場合は５－９９（分）
距離の場合は 0.1－99.9（km）
目標数値を傾斜ボタン、または数値入力ボタンで入力して決定を押します。

目標設定が完了したら、速度表示が点滅します。
速度ボタンを押すと、エクササイズスタートです。

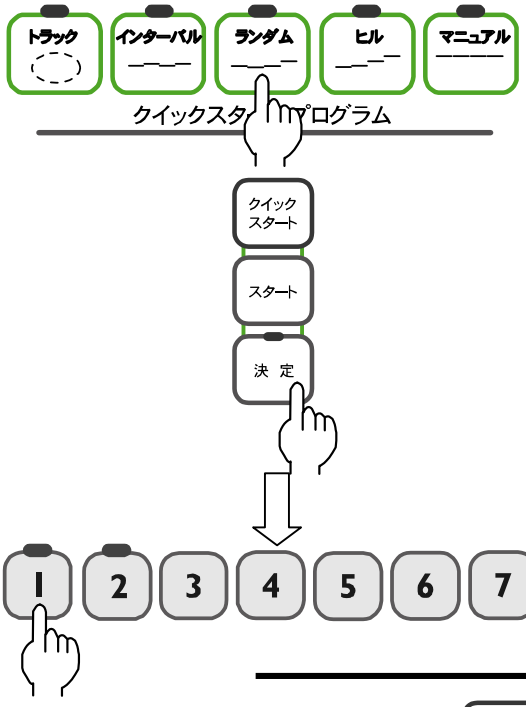
エクササイズ終了



目標達成しましたら、クールダウンモードに入ります。
徐々に速度が落ちていき、完全に停止するとデモ画面に戻ります。

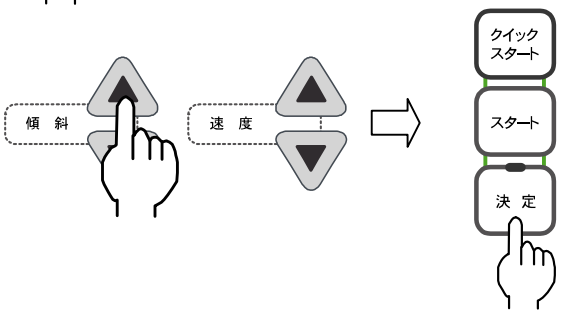
途中でエクササイズを終了する場合はストップボタンを押します。

ランダムモード

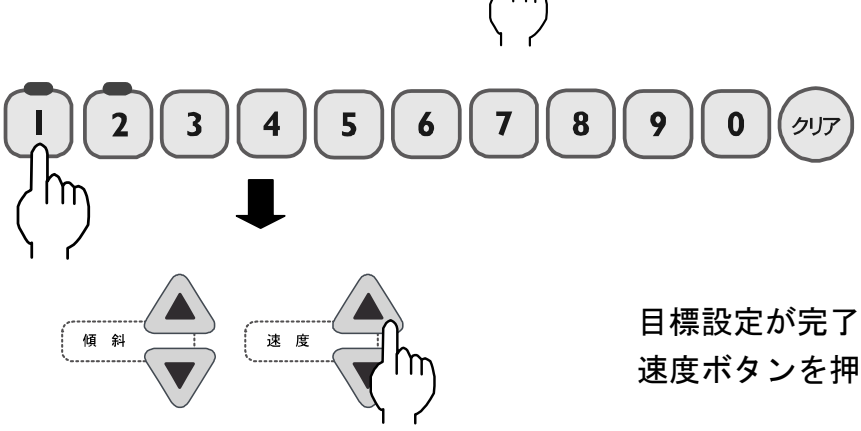


「ランダム」を押します。
「ランダム」を押すたびに傾斜パターンが変化します。
お好みのパターンを選択し、決定を押します。

目標時間／距離の選択画面になります。
数字入力ボタンで時間／距離を選択して決定します。
１：ジカン　２：キョリ

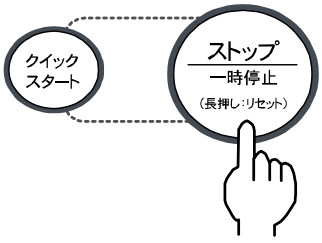


時間の場合は５－９９（分）
距離の場合は 0.1－99.9（km）
目標数値を傾斜ボタン、または数値入力ボタンで
入力して決定を押します。



目標設定が完了したら、速度表示が点滅します。
速度ボタンを押すと、エクササイズスタートです。

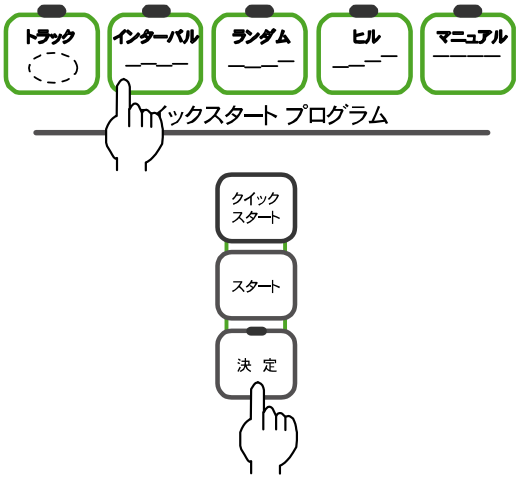
エクササイズ終了



目標達成しましたら、クールダウンモードに入ります。
徐々に速度が落ちていき、完全に停止するとデモ画面に戻ります。

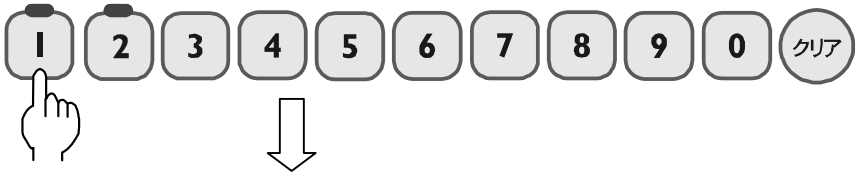
途中でエクササイズを終了する場合はストップボタンを押します。

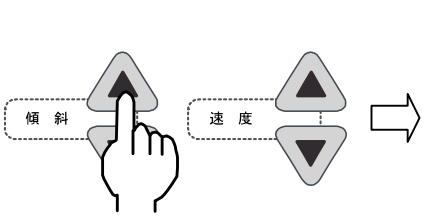
インターバルモード



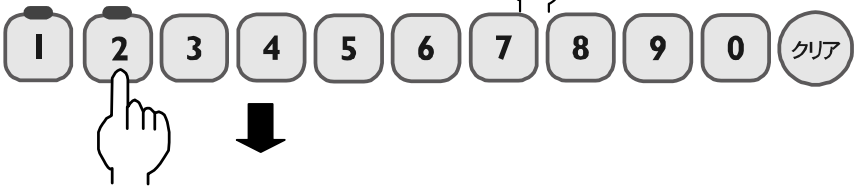
「インターバル」を押します。
「インターバル」を押すたびに運動パターンが
１：１　１：２　２：２　と変わりますので、お好みのパターンを選択し、決定を押してください。

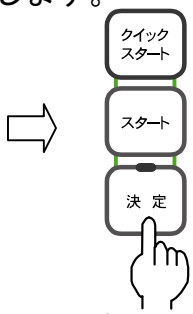
目標時間／距離の選択画面になります。
数字入力ボタンで時間／距離を選択して決定してください。
　１：ジカン　２：キョリ

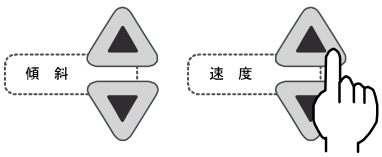




時間の場合は５－９９（分）
距離の場合は 0.1－99.9（km）
目標数値を傾斜ボタン、または数値入力ボタンで入力して決定を押します。







目標設定が完了したら、速度表示が点滅します。
速度ボタンを押すと、エクササイズスタートです。

●休息（レスト）ステージのスタート
休息(レスト)ステージが始まります。この時、あらかじめ登録してある速度、傾斜で始まりますので、お好みの速度、傾斜に変更できます。
※この時に変更しますと、以後の休息（レスト）ステージが全て変更となります。

●休息（レスト）ステージのスタート
休息(レスト)ステージが始まります。この時、あらかじめ登録してある速度、傾斜で始まりますので、お好みの速度、傾斜に変更できます。
※この時に変更しますと、以後の休息（レスト）ステージが全て変更となります。

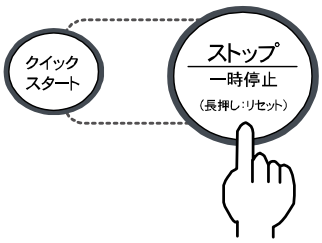
休息（レスト）ステージが終了しますと、運動ステージに変わります。

●運動ステージのスタート
運動ステージが始まります。この時、あらかじめ登録してある速度、傾斜で始まりますので、お好みの速度、傾斜に変更できます。

運動ステージが終了しますと、休息（レスト）ステージに変わります。

目標設定まで、休息（レスト）ステージと運動ステージと交互に繰り返します。

エクササイズ終了



目標達成しましたら、クールダウンモードに入ります。
徐々に速度が落ちていき、完全に停止するとデモ画面に戻ります。

途中でエクササイズを終了する場合はストップボタンを押します。

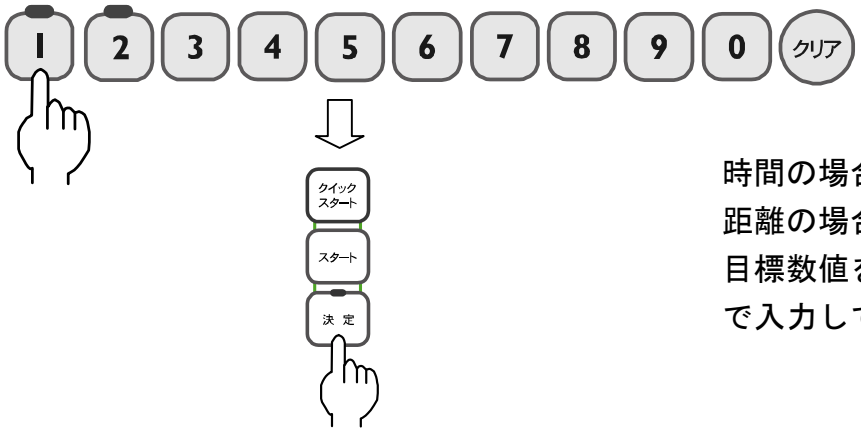
トラックモード

「トラック」を押します。
「トラック」を押すたびに「トラック」／「トラック 5km」／「トラック 10km」が表示されます。

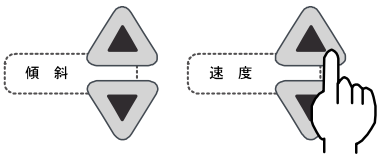
「トラック」の場合→目標時間／距離の設定へ
「トラック 5km」「トラック 10km」の場合は目標距離が 5km、10km となります。
いずれかを選択し、決定ボタンを押します。

「トラック」の場合　※5k　10k の目標設定をした場合はこの項目は必要ありません。

目標時間／距離の選択画面になります。
数値入力ボタンで時間／距離を選択して決定を押します。

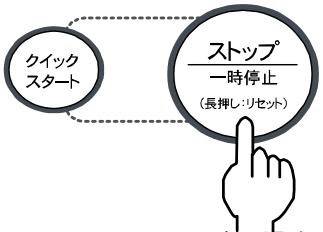


時間の場合は５－９９（分）
距離の場合は 0.1－99.9（km）
目標数値を傾斜ボタン、または数値入力ボタンで入力して決定を押します。



速度表示が点滅します。
速度ボタンを押すと、エクササイズスタートです。

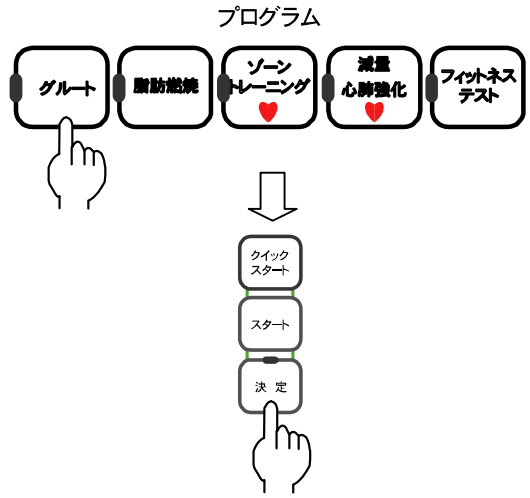
エクササイズ終了



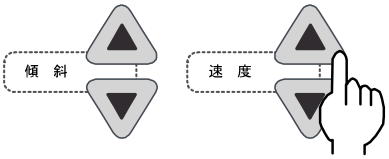
目標達成しましたら、クールダウンモードに入ります。
徐々に速度が落ちていき、完全に停止するとデモ画面に戻ります。
途中でエクササイズを終了する場合はストップボタンを押します。

※トラックモードの場合はインフォメーション画面に 400m トラックが表示されます。
運動中の経過はラップ表示されます。

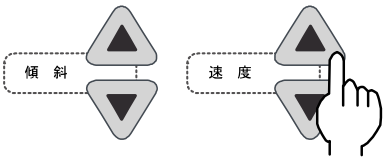
グルートモード



「グルート」ボタンを押します。
「グルート」を押すたびに「グルート 30」／「グルート 45」を表示します。
30 は 30 分間、45 は 45 分間です。
いずれかを選択し、決定を押します。

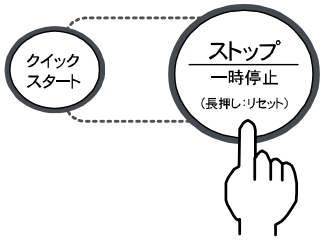


速度表示が点滅します。
速度ボタンを押すと、エクササイズスタートです。



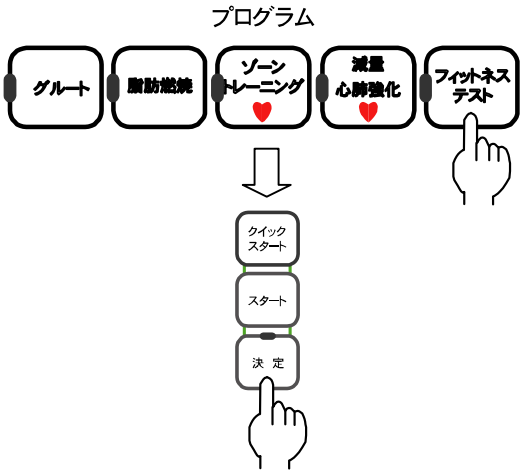
運動中、任意で速度は変更できます。
傾斜は変更できません。

エクササイズ終了



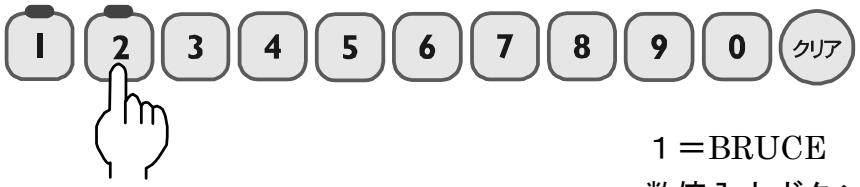
目標達成しましたら、クールダウンモードに入ります。
徐々に速度が落ちていき、完全に停止するとデモ画面に戻ります。
途中でエクササイズを終了する場合はストップボタンを押します。

フィットネステストモード



「フィットネステスト」ボタンを押します。
決定を押します。

テスト項目の選択



１＝BRUCE　２＝GERKIN
数値入力ボタンでテストの項目を選択します。

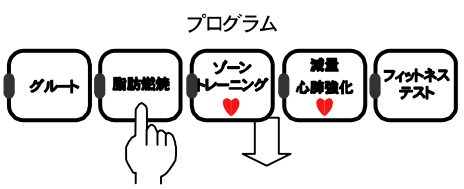
⇩

※１、２のいずれかを押すと、自動的にトレッドミルはスタートします。
ブルースは 30 分間、ジャーキンは 13 分間のテストを行いますが、途中でトレッドミルの速度や傾斜角度が自動で変化しますので、充分に注意してテストを行ってください。

テストが終了し、クールダウンが終わりますとスコアが表示されます。
スコアは続けた時間より計算されます。完走すると最高１００点となり、途中でストップボタンを押すと、それまでのスコアが表示されます。

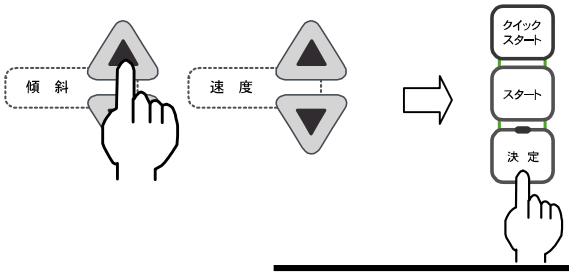
※このモードは脈拍センサーでも作動はしますが、振動などで脈拍が正常に表示しない場合がありますので、正しいフィットネステストができない場合があります。
必ず、POLAR の心拍送信チェストベルトを着用して、フィットネステストを行ってください。

脂肪燃焼モード

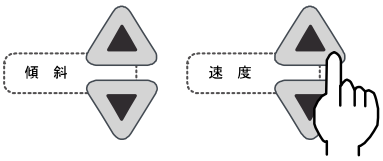


「脂肪燃焼」ボタンを押します。
決定ボタンを押してください。

目標時間／距離の選択画面になります。
数値入力ボタンで時間／距離を選択して、決定します。

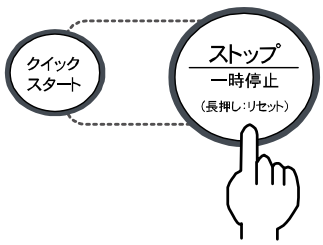


運動レベルの選択をします。
傾斜ボタンで入力します。
範囲：１～２０
決定ボタンで決定します。



速度表示が点滅します。
速度ボタンを押すと、エクササイズスタートです。

エクササイズ終了

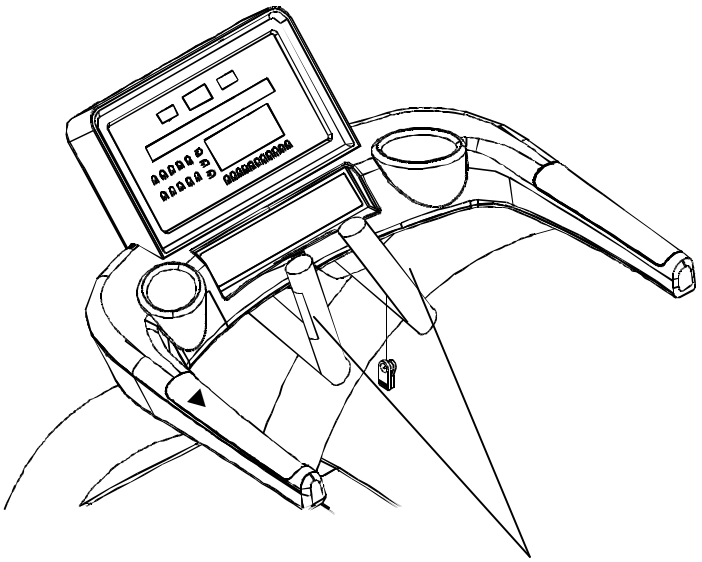


トレーニング中、速度の変更は自由にすることができます。
傾斜は変更できません。傾斜ボタンを押すと、運動レベルの変更ができます。

途中でエクササイズを終了する場合はストップボタンを押します。

※　減量／心肺強化モードの場合はオプションのチェストベルトが必要です。

脈拍センサーの使い方



脈拍センサー

トレッドミルを使用中に脈拍数を測る場合は上図の脈拍センサーを両手でしっかりと握ってください。握ると脈拍表示部に点滅し、しばらくすると表示されます。

※あくまでも脈拍数は目安程度にしてください。

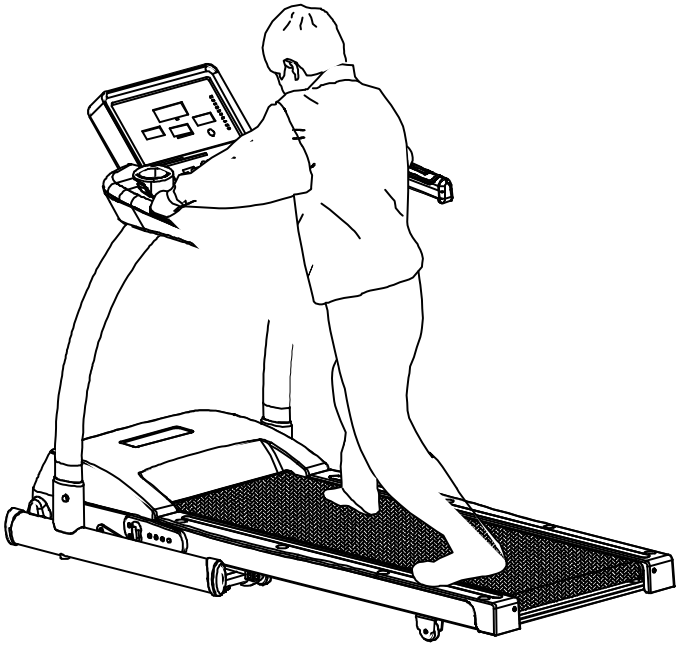
※個人差があり、脈拍が感知されにくい場合もありますので、ご了承ください。

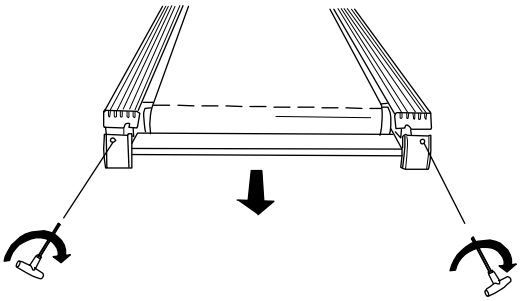
より正確な脈拍数を知りたい方は付属のチェストベルト又はPOLAR（ポラール）製の心拍送信チェストベルトをご使用ください。

調整方法とお手入れ方法

◎走行ベルトの張り調整

走行ベルトの張りが緩いと走行中に走行ベルトがスリップ（モーターは動くがベルトが止まってしまう症状）して、大変危険です。
逆に走行ベルトを張りすぎると、前後のローラーのベアリングに無理がかかったり、電子部品やモーターに負担がかかり、故障の原因となります。
下記の方法で適切な張り調整を行ってください。





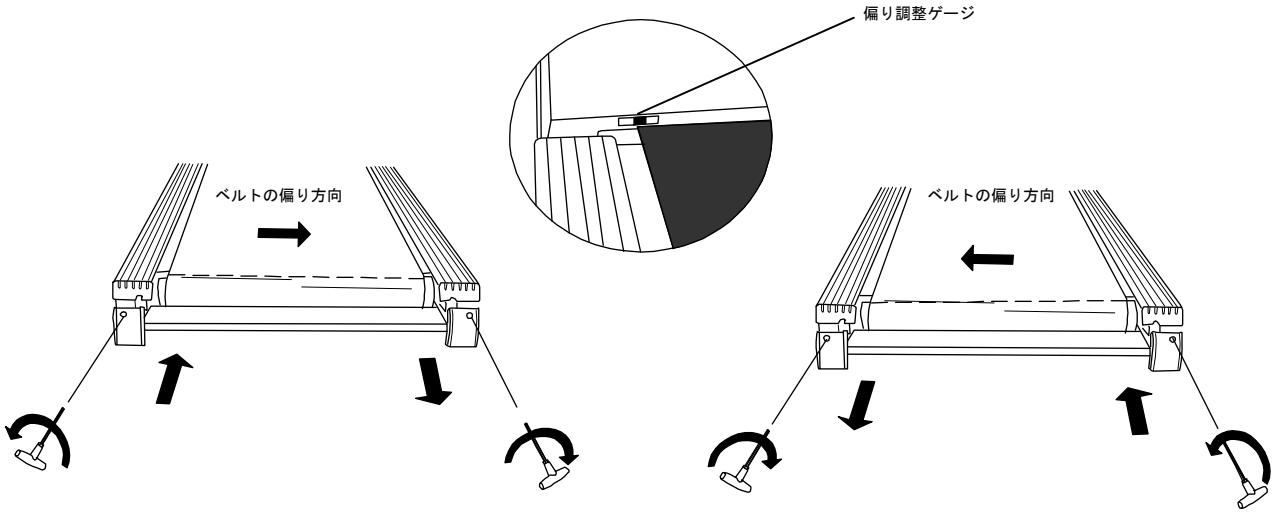
① 付属の走行ベルト調整用のレンチを走行ベルト調整ボルトに差込み、走行ベルトを一旦緩めます。
② 走行速度を４km／h に設定して、左図のように手すりを持って足を踏ん張り、走行ベルトを止めるようにしてください。
③ もし、走行ベルトが止まったら、走行ベルトの張りが弱いので、少し両サイドを同じくらい時計回りに回します。
④ ②、③を繰り返し行って、走行ベルトが止まらなくなる状態まで張ります。

⚠ 危 険

走行ベルトの張りが緩いとモーターが作動しているのに走行ベルトが一瞬止まってしまい、走行ベルトがスリップしてしまいます。使用者が転倒する危険がありますので、適切に張り調整をしてください。
走行ベルトの張りが強すぎると、モーターや前後のローラーに負担がかかり、異音などの発生原因となります。また、走行ベルトの裏面の消耗が早まり、必要以上の負荷がモーターや電子基盤などにかかり、故障の原因となりますので、ご注意ください。

◎走行ベルトの偏り調整

基本的に前ローラーと後ローラーが完全に平行になっている場合は偏りはありません。
もしも、左右いずれかに偏りが発生する場合は下記の要領で偏り調整ゲージの緑の範囲内で収まるように調整してください。



走行ベルトが右側に偏る場合

マシンを作動させて、基本的には偏る方向の（この場合は右側）の調整ボルト時計回り方向に９０°ずつ回して変化を確認しながら引っ張りを繰り返してください。
逆の方向に偏る場合は回しすぎですので、反時計回しに戻してください。

走行ベルトが左側に偏る場合

マシンを作動させて、左側の調整ボルトを時計回りに回して引っ張りを繰り返します。
逆の方向に偏る場合は回しすぎですので、反時計回しに戻してください。

もうひとつの方法としては走行ベルトの偏る方向と逆のボルトを反時計回しに回して緩めることもできます。
どちらの方法でも構いませんが、走行ベルトの張りすぎには十分に注意ください。

注）次の場合は走行ベルトの調整をしても偏りの調整はできません。

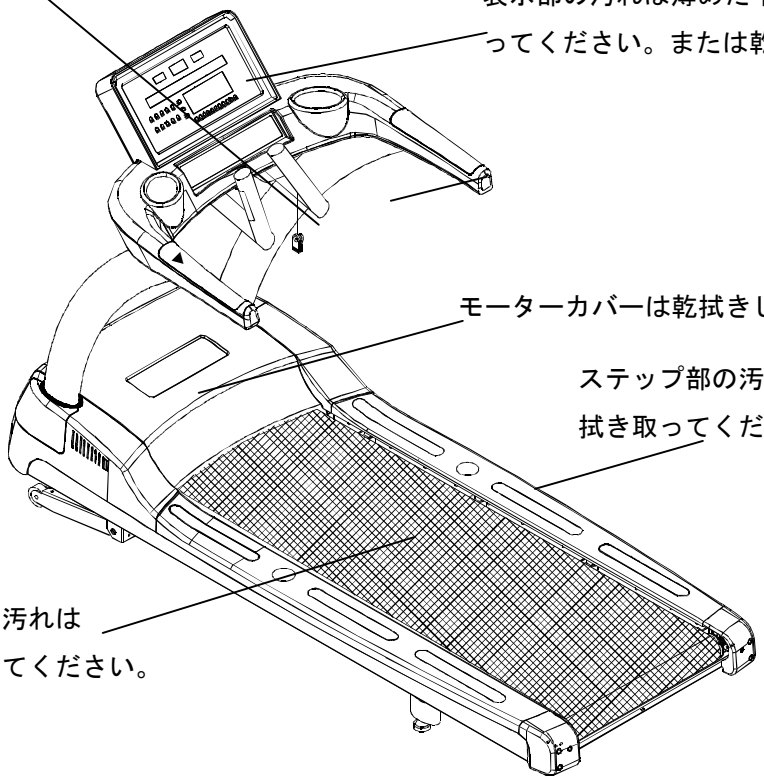
① 設置している場所が水平ではない場合
床面が水平ではない場合は低い方向へ走行ベルトが偏ります。
なるべく水平な場所へ設置し、やむを得ず、水平でない場合は床面アジャスターでマシンが水平になるように調整してください。

② お体の不自由な方（特に足の不自由な方など）が使用する場合
両足のけり足の力が均一でなく、どちらかの足の力が強い場合、走行ベルトはいずれかの方向に偏る場合があります。

③ アライメントローラーが走行ベルトから外れている場合

◎各部のお手入れ方法

マシンを長くお使いになるために次のようなお手入れ方法を実施してください。



◎走行ベルトの裏面と走行板の表面の清掃について

最低 1 ヶ月に 1 度は走行ベルトを緩めて、走行ベルトの裏面と走行板の表面を乾いた布などで乾拭きしてください。

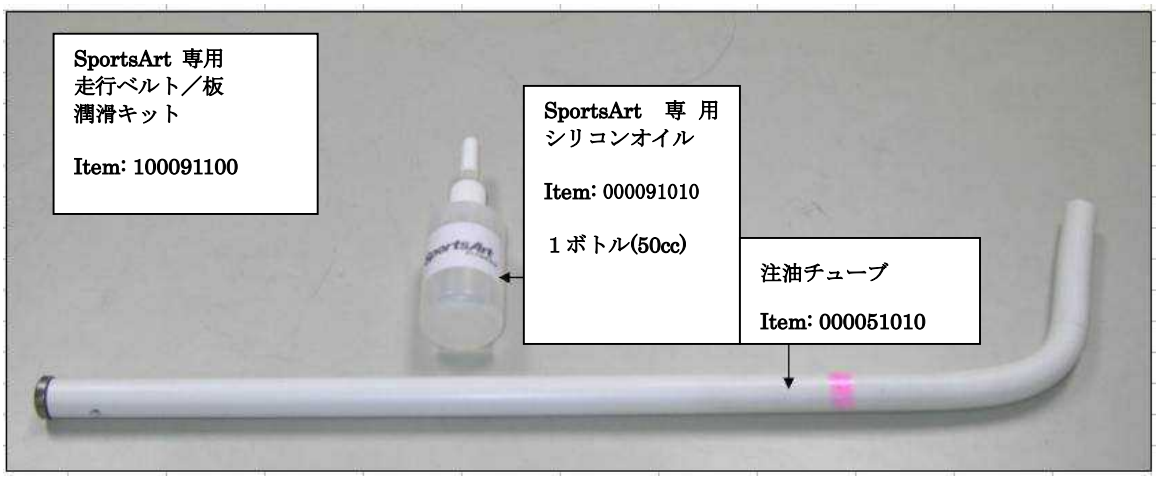
⚠ 注 意
中性洗剤以外の洗剤を使用された場合、色の退色や溶解、変形などが生じる場合がありますので、中性洗剤以外のご使用はお止めください。 走行板・走行ベルトの裏面は特殊処理しておりますので、洗剤や潤滑油（CRC など）のご使用はお止めください。

シリコンオイル注入方法

メンテナンス

定期メンテナンスは、トレッドミルの性能及びフィットネス設備の性能を保つ為に重要なものです。メンテナンスをする事により、より長く製品を維持・使用できます。このトレッドミルは、走行ベルトへの周期的な注油を要求し、メンテナンスなしで過剰使用する事を防ぐシステムを備えております。
注入メンテナンス周期は、4000km 毎/1 回

トレッドミル潤滑油注入キット

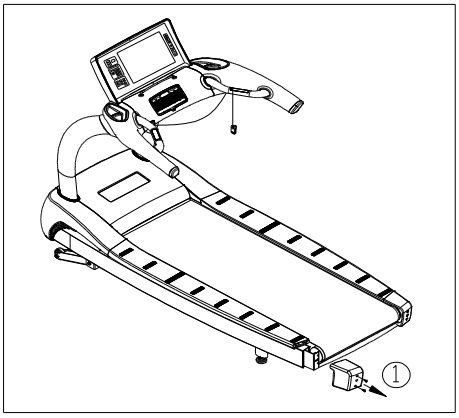


本トレッドミルの走行ベルトの周期的な注油は、大変重要です。潤滑キットが必要な場合は購入店にお問い合わせください。

潤滑プロンプト The Lubrication Prompt

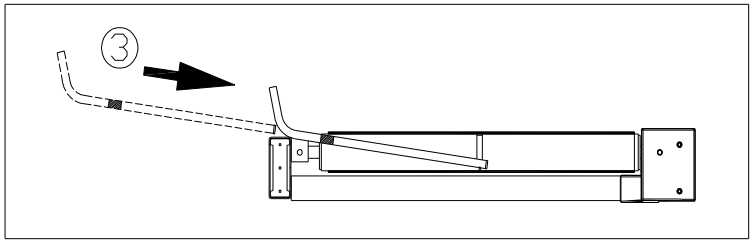
総走行距離が毎 4000km を超えるたびに、表示部にメッセージ「ベルトニ、チュウユガヒツヨウデス」が現れると本マシンは停止します。これは定期的にトレッドミルへの注油を忘れない為にあります。
※4100km までは普通に作動させる事はできます。
しかし、4100km を超え再び、表示部にメッセージ「ベルトニ、チュウガヒツヨウデス」が現れると本マシンは停止します。この状態になってしまうと、潤滑油注入メンテナンスが完了するまでメッセージが表示部に残り、本マシンは作動させることができません。

1. リアエンドキャップ（左）を取り外します。

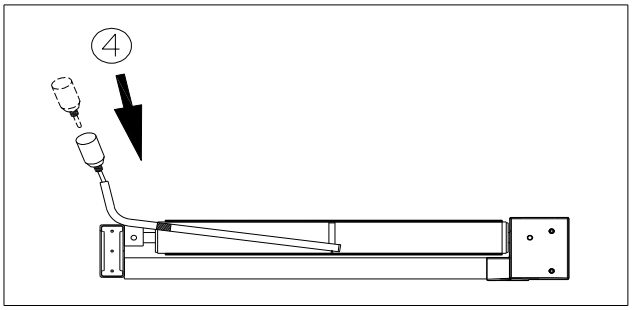


2. 傾斜▲ + 傾斜▼ + 0 キーを同時に押します。（約 2 秒）すると、トレッドミルは低速で作動します。

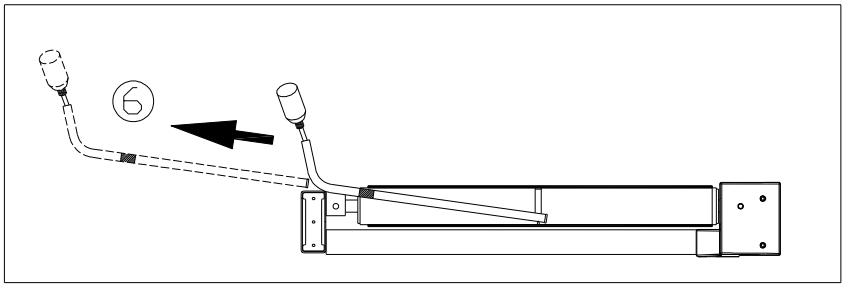
3. 走行ベルトの内側面に沿ってリアローラーの中心部付近（リアローラーと走行ベルト内面の間）に注油チューブを挿入します。



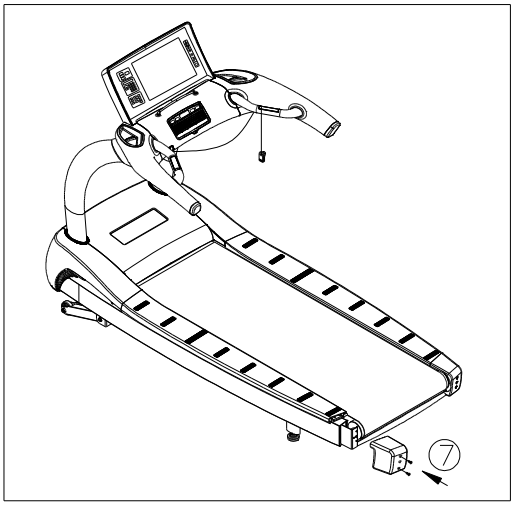
4. 注入（適量）しながらトレッドミルを２，３分動作させることにより、
全体に潤滑油を分散できます。



5. 潤滑油ボトルと注入チューブを取り外します。



6. リアエンドキャップ（左）を元に戻します。

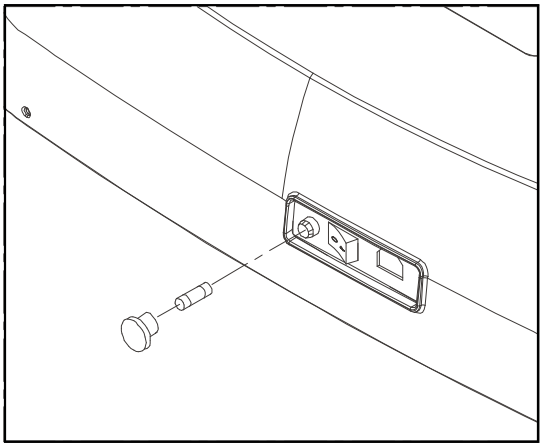


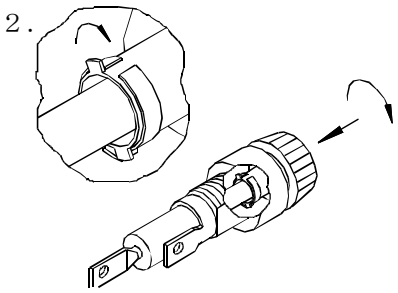
7. 潤滑メンテナンス作業が完了したら、メッセージ「チュウユガオワッタラストップキーヲオシテクダサイ」が現れるので、STOP キーを押してください。STOP キーを押すと、本作業の完了です。本マシンは通常通り操作できます。注油の累積距離を計算し直し、毎 4000km 走行後、再びメッセージを出現させます。

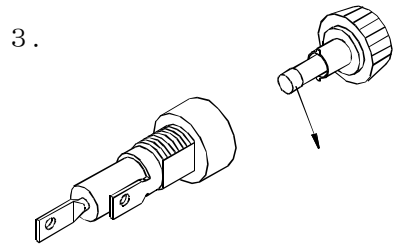
トラブルシューティング

◎ヒューズの交換方法（15Ａヒューズ）

⚠ 危 険
ヒューズを交換する場合は必ず電源スイッチを OFF にし、電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。





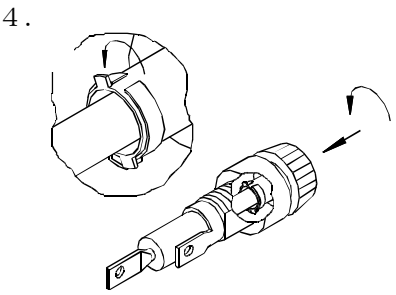


1．電源スイッチを OFF にして電源プラグをコンセントから抜きます。

2．ヒューズホルダーを押しながら反時計回しに回してヒュ―ズホルダーを抜いてください。

3．ヒューズホルダーからヒューズを抜き取り、切れていないか確認してください。切れている場合は新しいヒューズと交換します。

4．ヒューズホルダーを元に戻して、押しながら時計回しに回して固定します。



⚠ 注 意
指定以外のヒューズは使用しないでください。指定以外のヒューズをご使用になりますと本体に悪影響を及ぼす可能性がありますので、必ず指定のヒューズをお求めになってください。 指定以外のヒューズをご使用になっての故障は保証の対象外となります。

◎エラーメッセージについて

もしも、トレッドミルが動かなくなった時は表示パネル部にエラーメッセージが表示されます。
一度、電源を切り、3 分後に再度電源を ON にしてください。それでもエラーメッセージが表示される場合は下記を参考にお願いします。

コード	意味	内容（対応策）
エラー１_１_	モーター関連エラー	モーターの故障が考えられます。一度電源を切って、しばらくしてから、再度入れ直して下さい。
エラー１_２_	モーター関連エラー	モーターが熱を持っています。速度は通常の半分に制限されます。
エラー１_３_	モーター関連エラー	トレッドミルが急に加速しました。一度電源を切って、しばらくしてから、再度入れ直して下さい。
エラー２_１_	ドライブボード基盤エラー	ドライブボード基盤の IGBT 電流値が高いです。一度電源を切って。しばらくしてから、再度入れ直して下さい。
エラー２_２_	ドライブボード基盤エラー	ドライブボード基盤が熱を持っています。速度は通常の半分に制限されます。
エラー３_１_	傾斜モーターエラー	傾斜モーターがキャリブレーションが狂っています。
エラー４_２_	電圧供給エラー	電圧供給が低下しています。一度電源を切って、しばらく経過してから、再度入れ直して下さい。
エラー４_３_	電圧供給エラー	電圧供給が高すぎます。一度電源を切って、しばらく経過してから、再度入れ直して下さい。
エラー８_１_	接続通信エラー	マシンの電源を入れた時、制御基盤とドライブボード基盤との間に接続通信エラーがあります。
エラー８_２_	接続通信エラー	エクササイズ中に、制御基盤とドライブボード基盤との間に接続通信エラーがあります。

表示部に何も表示されない場合

１．電源スイッチが入っていることを確認してください。（電源が入っていると点灯します。）
２．電源プラグがコンセントに確実に差し込まれているか確認してください。
３．建物のブレーカーを確認してください。
４．メインヒューズ（15A）が切れていないか確認してください。
上記の４つを確認していただいて、それでも表示されない場合は販売店にご相談ください。

電源スイッチは点灯しているが表示部が表示されない場合

ドライブボード（モーターカバー内の電子基盤）の中の CPU 表示用のヒューズが切れている場合があります。販売店にご相談ください。

その他

⚠ 注 意
メーカーより依頼されたメンテナンス要員以外の方はモーターカバーを絶対に開けないようにしてください。（メーカーより指示のある場合を除きます。）もしも許可なくして、故障が発生した場合は保証の対象外となる場合があります。

◎製品仕様

①走行速度　0.2km/h～20.0km/h（0.1km/h）逆走:－0.2～－5.0km/h
②時間計測　0～99min　59ｓ
③距離計測　0～99.99km（0.01km ステップ）
④停止装置　磁気マグネット式
⑤駆動方式　ＡＣサーボモーター制御方式
⑥電源入力　100V　50／60Ｈｚ　15A

◎寸法

本体　長さ 2180×幅 955×高さ 1425mm
　　重量 156kg
有効走行面サイズ　幅 559×長さ 1600mm

◎日常・定期点検について

トレッドミルを安全に機能、性能等の信頼性を維持するためにこのページに記載してある使用前の「日常点検」と「定期点検」は使用不可欠なことです。もし、保守点検の欠如により事故が発生した場合は、当社が責任を負えないことがありますのでご注意ください。

⚠ 危 険
●装置を分解しないこと 装置の内部には高電圧部分があり、万が一手等を触れますと感電して危険です。絶対に分解しないでください。 ●物、水等を入れないこと コネクターや本体内部に水、金属、燃えやすいものを入れないでください。火災や感電、事故の原因となります。

点検前にはトレッドミルを清掃してください。汚れのひどい時は中性洗剤を含んだ布を固く絞って拭き取った後、乾いた布でよく乾拭きしてください。

「日常点検」

日常点検は日常点検記録表（P.37）に従って、毎日実施してください。

「定期点検」

定期点検は定期点検記録表（P.38,39）に従って実施してください。

定期点検は少なくても６ヶ月毎に実施してください。

「日常点検」「定期点検」において不具合が発見された時は、不具合の内容を当社までご連絡ください。

「保守点検契約」に関するお問い合わせについては、販売店までご連絡ください。

日常点検記録表

管理 NO

項目			点検項目	判定基準	合否	要修理
視覚的点検	コード類 消耗品 付属品	1	電源コード	キズ、破損はないか		
		2	取扱書の保管	規定の場所に保管してあるか		
		3	その他			
	外観	1	外装のキズ、割れ、変形、錆	破損などがないか		
		2	銘板、シールなどの剥れ、汚れ	表示が確認できるか		
		3	フレームなど	破損などがないか		
		4	走行ベルト	磨耗、両端のほつれがないか		
		5	その他			
機械的点検	本体	1	走行部	動きがスムーズで異音などがないか		
		2	傾斜部	動きがスムーズで異音などがないか		
		3	その他			
	コード類	1	電源コード	コンセントの保持力に問題はないか		
			その他			
電気的点検	性能	1	ストップボタン	正常に停止するか		
		2	リセットボタン	全ての表示が0表示になるか		
		3	速度ボタン	スムーズに表示が上下するか		
		4	傾斜ボタン	スムーズに表示が上下するか		
		5	各種動作モード	各種動作モードが確実に設定できるか		
		6	その他			
清掃、消毒		1	清掃、消毒			
その他						
総合判定						

機種名		型式	
設置場所		製造 NO	
点検日時		購入年月日	
点検責任者		承認	

定期点検記録表

管理NO

項目			点検項目	合否	要修理
視覚的点検	外観	1	取扱説明書が保管されているか		
		2	電源コードに破損・キズはないか		
		3	電源コードのコンセントへの保持力はＯＫか		
		4	アースの接地はＯＫか		
		5	設置場所の条件（直射日光・ほこり・振動・床面等）は良いか		
		6	外装の破損・変形・錆などがないか		
		7	表示パネル部の表示部に汚れや破損、文字欠けなどがないか		
		8	表示パネル部の操作部に汚れや破損などがないか		
		9	走行ベルトの偏り、張りは適当か		
			その他		
	外部内部点検	1	走行ベルト（裏面）に汚れ・破損がないか		
		2	本体や手すりなどに亀裂・破損などがないか		
	内部点検	1	走行板に汚れ・くぼみ・キズ・破損などがないか		
		2	駆動ベルトの張りは適切か、磨耗していないか		
		3	電源スイッチ・ヒューズホルダーに破損はないか		
		4	電源スイッチは点灯するか		
機械的点検	機械的点検	1	各ボルト・ナットの脱落や緩みはないか		
		2	前後ローラーの固定は確実か、異音はないか		
		3	カーボンブラシが磨耗していないか、キズはないか		
			その他		
性能点検	作動点検	1	ストップボタン		
		2	速度△▽ボタン		
		3	傾斜△▽ボタン		
		4	各種プログラムボタン		
		5	最高速度で異音がしないか		
		6	傾斜装置の０％はＯＫか		
		7	傾斜装置に異音はないか		
			その他		
電気的点検	作動点検	1	供給側電圧測定（AC）		
		2	電源コード側消費電流値測定（AC）		
清掃、消毒		1	清掃、消毒		
総合判定					

電気的点検のチェック表

供給側電圧（AC）コンセント	V
供給側電流（AC）AC１：最高速度にて計測	A

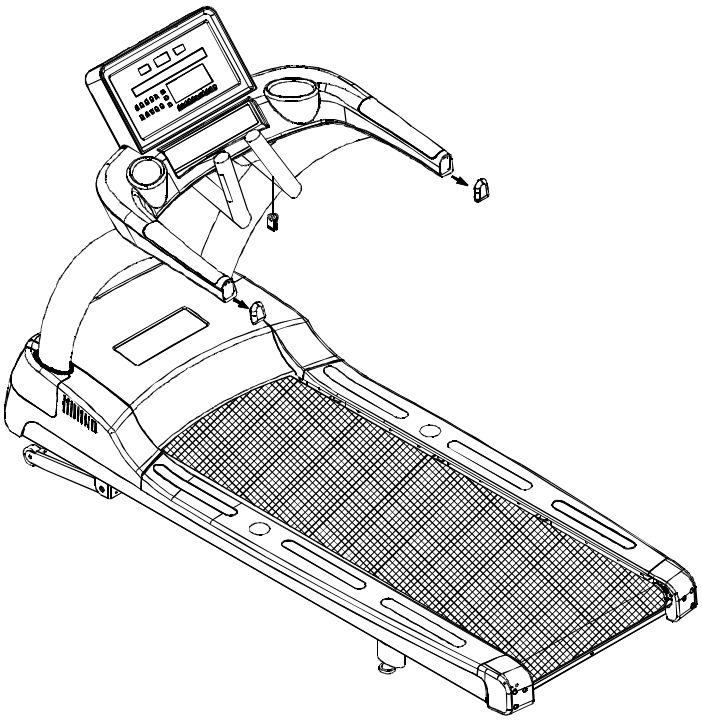
使用状況の確認表

1	１日のおおよその使用時間			時間
2	１週間に何回使用するか			回／週
3	消耗部品など交換した部品を記入してください			
	○部品名	（　　）	交換実施日	年　月　日
		（　　）	交換実施日	年　月　日
		（　　）	交換実施日	年　月　日
		（　　）	交換実施日	年　月　日
		（　　）	交換実施日	年　月　日
		（　　）	交換実施日	年　月　日

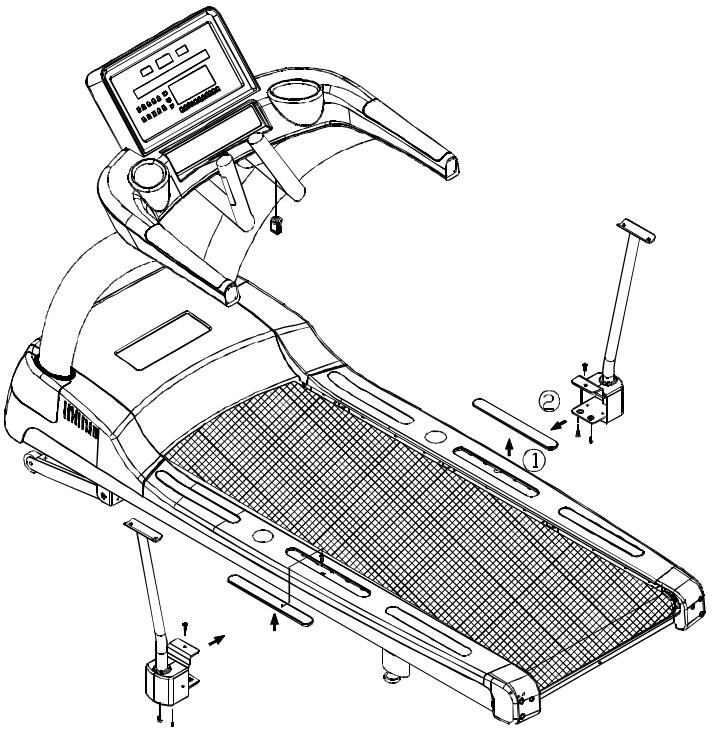
機種名		型式	
設置場所		製造 NO	
点検日時		購入年月日	
点検責任者		承認	

T650MES　ロングハンドレールの取付け方法

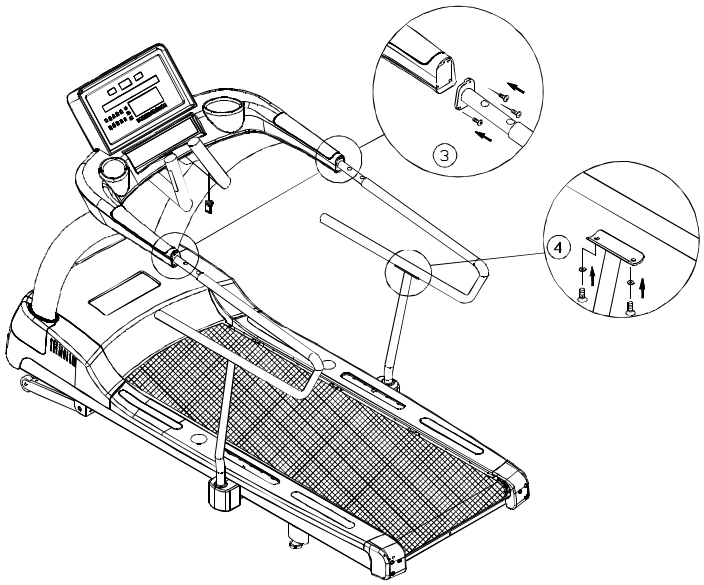
※ オプションにてロングハンドレールを取付ける場合の組立て方です。



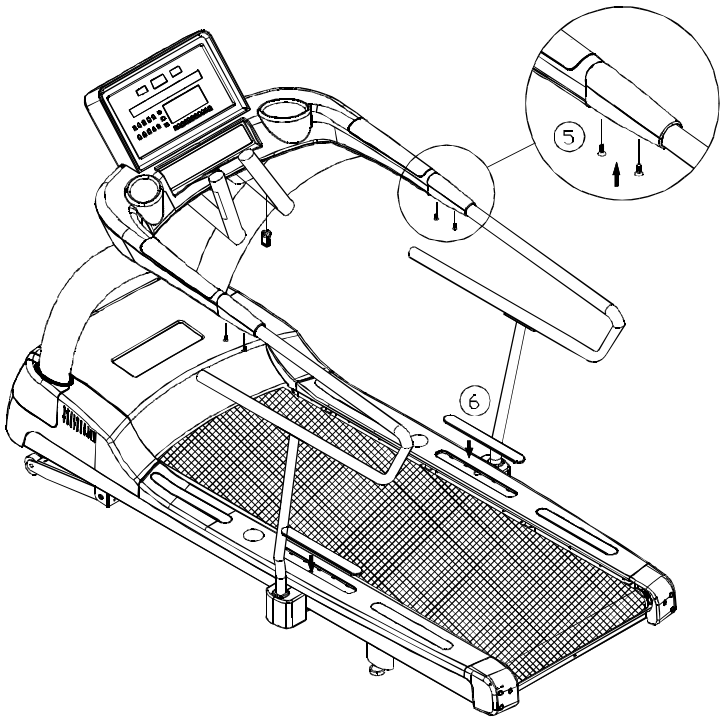
１、標準のハンドレールの先端の樹脂のキャップを取り外します。



２、左右のアシストバーを取付けます。
左図を参考にして、取付けます。まだ、ボルトは締め付けず、緩いままにしてください。



３、ロングレールを取付けます。
左図のように取付けます。
※ ボルトは緩いままにしてください。
※ 全てのボルトの取付けが完了したら、
ボルトを完全に締付けて下さい。



４、全てのボルトを締め付けましたら、ロングサイドレールと標準のハンドレールのつなぎ目にカバーを取付けます。
上と下のカバーを組み合わせて、下側からボルト２本で固定します。

左右、取付けが完了したら、取付け作業は完了です。ロングサイドレールを揺さぶって、ガタつきがないか確認してください。

保　証　書

本保証書は下記の保証期間ならびに保証条件にしたがって、無償修理することをお約束するものです。この保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。

製品名	スポーツアートトレッドミル
製品番号	SPORTS ART　T650MES
製造番号	

お買い上げ日：　　年　　月　　日

お名前

ご住所

電話番号

保障期間はお買い上げの日から１年です。

販売店

ご購入後、ご記入願います。ご記入のない場合、保証が受けられない場合があります。

１、　取扱説明書の注意に従った正常な使用環境と使用状況で、万一品質上の不具合が発生した場合において、消耗品を除き納入後１年間原則として販売店が保証修理いたします。

２、　保証修理は補修、または部品の交換により実施し、これにより取り外された不具合部品は株式会社フジモリの所有物となります。

３、　出張修理の場合は出張費を請求する場合がありますので予めご相談ください。

４、　保証修理をお受けになる場合には製品保証書の提示が必要となります。

５、　保障期間内においても保証書の掲示がない場合は、無償修理の対象になりませんので、保証書は大切に保管してください。

６、　保障期間内であっても、次の場合には有償修理にての修理となります。

- 誤用、乱用および取扱いの不注意によるもの。
- 株式会社フジモリが認めた技術者以外によって修理や改造をしたとき。
- 火災、水害、地震、落雷およびその他の災害、戦乱、争乱によるもの。
- 部品の通常の磨耗、又は経年劣化。
- 運送途中、備え付け時と使用時に生じた傷、色の退色、および外見上の変化。
- 機能に影響のない感覚的現象（音、振動等）

７、　その他の保証対象免責事項

- 運送、販売の作業によって引き起こされた費用（備え付け、除去にかかわる費用）
- 取扱説明書の遵守に従わない使用によって起きたあらゆる損害。
- 保障期間内中でも使用できなかったことによる期間損失等の費用。

８、　当社の全責任はすべての環境下で本体の出荷価格を超えることはありません。なお、製造物責任法にかかる係争においては富山地方裁判所高岡支部を第１審裁判所と致します。

９、　製品は日本国内の屋内施設の使用に限定し、この保証規定は日本国内の使用に限り有効です。

FUJIMORI
Fitness & Bicycle
株式会社フジモリ

輸入代理店　株式会社フジモリ
〒933-0831　富山県高岡市若富町 186
Tel0766-21-0955　　fax0766-21-0957
E メール：fitness@fujimori-r.com

SportsArt
FITNESS
Xtreme
escape ordinary